

資料： 平成20年度研究評議会での主要な意見・要望とそれに対する対応

1. 機関の運営

男女共同参画、女性支援は重要なので、さらに取組をお願いしたい。
女性の力を活かすような活動を是非お願いしたい。

(対応状況)

男女共同参画室を中心にエンカレッジモデル活動を行い、平成21年度からは保育サポート体制の整備の一環で本所と関西支所に保育室を設置し運用を開始し、また、裁量労働制の導入や各種休暇制度の改善を行うなどの活動を行いました。

個々の成果がロードマップ中でどこに位置するのか知りたい。成果選集の中にもロードマップに対する位置づけが書いてあると分かり易い。また、ローリングをきちんと頻繁に行うことが必要。

(対応状況)

ロードマップは2050年時点のあるべき森林の姿を想定し、2010年以降、10～20年ごとの長期達成目標を時間軸の上に示したものであり、毎年度の対応は想定していません。今後、中期計画期間の終了・開始年度などの節目ごとに、成果の位置付け、目標の点検・見直しを進めます。

基盤研究、いわゆる調査研究をきちんとした形で業績評価していただきたい。

(対応状況)

基盤研究として位置付けられている調査研究業務については、論文・報告書等の発表業績だけでなく、データベース構築や努力・創意工夫等の貢献を評価するため、特段の貢献として高く評価された具体的事例を評価マニュアルに提示して研究職員による自己アピールを促すことにしました。

2. 研究課題の設定

国産材の利用拡大は急務である。A材の需要開拓に対応しないと間伐もできなくなる。利用を拡大する研究、実用化の研究をお願いしたい。

(対応状況)

A材の需要開拓に資するための交付金プロ「スギ中・大径材製材の生産能率向上のための材質選別・製材・乾燥のシステム化」、ならびに交付金プロ「地域材を利用した安全・快適住宅の開発と評価」を開始しました。

伐採から搬出までは森林総合研究所の「総合」に相当する。それについて具体的な実績になる研究をしていただきたい。

(対応状況)

北海道（ハーベスタ、フォワーダ）、静岡（チェーンソー、スーパーロングリーチグラブ、フォワーダ）、鹿児島（ハーベスタ、フォワーダ）において、地域性を反映した各作業機械と路網とを組み合わせた伐出システムを開発し、今年度は普及に向けた実証試験を行っています。

3. 成果の公表

研究成果が単発的に並んでいるような雰囲気がある。研究課題やその成果の横の関連性が見えやすくないか。

(対応状況)

各課題ごとに研究の背景と目的を明確に分かりやすく書くよう指導し、成果についての記載も図や写真を多く使って読者に理解を深めていただくよう努めています。

研究所の個々の研究をまとめて森林経営についてどのような絵が描けるか、政策提言を研究所でやるべき。森林総合研究所の「総合」を活かすようなレポートを是非出して欲しい。

(対応状況)

九州を対象とした大面積皆伐後の再造林放棄や災害発生等への対策を、土砂流出対策、林道作設方法、植生管理方法、シカ被害対策、林業関連制度の面から総合的に研究し、ガイドラインとして取り纏め、今年中の印刷を予定しています。また、森林総研の「季刊森林総研第6号」で林業再生に向けた特集を組み、現在の最新成果を公表しました。さらに、今年度から始まった農林水産省実用技術開発事業プロジェクト「スギ再造林の低コスト化を目的とした育林コスト予測手法及び適地診断システムの開発」では、育林初期段階の低コスト化を目指して、自然科学と社会科学を総合化した研究に取り組んでおり、12月にシンポジウムを計画するなど、総合化に取り組んでいます。

4. 成果の広報

森林総研を知らない人たちにどこまで情報を伝えるかということにチャレンジする時期に来ている。情報が欲しいに人届くようにするための方法について取り組んで欲しい。ホームページも丁寧にきちんと書かれているが、盛り込みすぎで読みにくい。

(対応状況)

広報誌については、発行ごとにアンケートをお願いして、次号の編集時に結果を検討するなど、改善の努力を継続しています。ホームページについては、昨年度根本的なリニューアルの検討を行い、年度内には更新を完了します。

木材をどう利用するか、あるいは一般生活にどう取り込んでいくかというところで研究のバックグラウンドを明確にして、成果を表に出していく方法、森林総研の価値を社会に知らしめる方法を考えていくことが必要。

(対応状況)

昨年度実施した近未来型木造住宅の設計コンペの結果をいくつかのジャーナルに発表すると共に、入選作品を冊子として刊行し、成果と活動のPRを行いました。

「構造用合板の手引き」のような成果受渡し先の普及活動を積極的にバックアップし成果の普及に努めました。

アグリビジネス創出フェア 2009 において、プロジェクト研究の成果である屋上緑化資材や耐火集成材を出展するなど、成果の普及と所のPRに努めています。